

# コイノニア



新緑しんりよくが美しい季節になりました。緑は本校のスクールカラーでもあります。が、キリスト教では希望を表す色であり、生命や自然を意味する色として大切にされている色です。5月もみなさん1人1人のいのちが大切にされ、希望あふれる1ヵ月となりますようにお祈りしています。

さて、5月には一般的に“母の日”と呼ばれる日曜日がありますね。実は、この“母の日”はアメリカのキリスト教会から始まったものなのです。本校では、お母さんだけに感謝するのではなく、お父さんやおじいちゃん・おばあちゃん、また兄弟姉妹、そして自分に関わり、支えてくれている全ての人々に感謝することを覚えて、「家族の日礼拝」を守ります。

そしてなによりも、神さまが私たちの家族となって、支え、守り、導いてくださっていることを忘れてはなりません。

「疲れた者、重荷を負う者は、だれでもわたしのもとに来なさい。  
休ませてあげよう。」(マタイによる福音書11章28節)

神さまは、いつでも私たちを癒やしてくださいます。私たちのしんどさや、辛さを、一緒に背負ってくださいます。心が元気になるように休ませてってくださいます。まさに、「神の家族」として招き、共に歩んでくださるのです。

「こっちへおいで!」「ここにいていいよ!」と優しく招いてくださる神さまの声に耳を傾けながら、自分のことを大切にできる1ヵ月にしましょう。

## キリスト教と音楽～これもあれも讃美歌?!～ #02「讃美歌21 451番」

〈讃美歌21 451番 くすしきみ恵み〉

- くすしきみ恵み われを救い、 まよいしこの身も たちかえりぬ。
- おそれを信仰に 変えたまいし わが主のみ恵み とうときかな。
- 思えば過ぎにし すべての日々、 苦しきも悩みも またみ恵み。
- わが主の み誓い 永遠にかたし、 主こそはわが盾、 つきぬ望み。
- この身はおとろえ、 世を去るとき、 よろこびあふるる み国に生きん。

アーメン。

この讃美歌は英語で「Amazing grace」と言い、大変有名な曲です。本校でも、日本語と英語で讃美します。

“Amazing grace! How sweet the sound. That saved a wretch like me! I once was lost, but now am found, Was blind, but now I see.”

神さまの恵み、救いは計り知れないほど大きなものです。私たちはどんなときでも神さまの御腕みうでに抱かれて、いつも神の愛に包まれて生きる存在なのです。

## 5月の予定

月間聖句 「疲れた者、重荷を負う者は、だれでもわたしのもとに来なさい。休ませてあげよう。」(マタイによる福音書11:28)

月間テーマ 「神の家族に招かれる」

10日(火) 家族の日礼拝

家族をはじめ、今までお世話になってきた人々へ感謝の気持ちを伝える大切さを学びます。

23日(月) 特別礼拝

生徒による礼拝。今年は2年3組・スポーツコースの生徒たちが発表してくれます。「スポーツ選手として実践する隣人愛」がテーマです。

30日(月) 総体壮行礼拝

県総体に出場する選手たちを激励する礼拝です。活躍を期待しています!

## 松山学院ものがたり #13 同志社で学んだ先輩たち(6-1) 入江源次郎



1920(大正9)年に本科を卒業。送別会で先輩にあたる今井新太郎が語った「夜学校に学ぶ者こそ、神を信じ、神の栄光をあらわし、困難に耐え雄々しく生きていくことが大切である。」という励ましに感動した者たちが、信仰の向上と伝道に努めるために、月1回の例会をもつことなどを話し合った。

「あなたがたは地の塩である。」(マタイ5:13)の聖句から“ソルト会”と名付けられたこの会のために尽力したのが入江源次郎と永井勝太郎であった。例会ばかりではなく求道者会・祈禱会・伝道集会など、活動は次第に充実していった。西村清雄・二神喜十をはじめ、教職員の家族も参加したキャンプは生徒たちにとって楽しい思い出となった。

このように、入江源次郎は本校で最も古い部活動、そして現在も残っている“ソルト会”の生みの親なのである。

## ☆今月の「喜ぶ人と共に」大賞☆

## チャペルでの出会い

先月、新入生対象の部活動体験入部がありました。礼拝堂で活動をしている軽音楽部の活動を見学しに来た新入生。ドキドキしながらチャペルに足を運びましたが、優しい先輩たちと出会い、楽器の演奏を体験しました♪

